

あんどおりすの防災四季だより

第9回 放送日：2019.5.31（金）

パーソナリティー：あんどおりす

テーマ：豪雨対策



「命を守る」という大切なことに役立つのは、
アウトドアのスキル。

阪神大震災を被災した「あんどおりす」さんが、
防災・減災の方法を楽しく導きます。

もうすぐ6月。

レインウェアとともに、

雨の季節に備えましょう。



大雨に備えよう

最近、
大雨が降り続くという事が
多く起こっていますね。

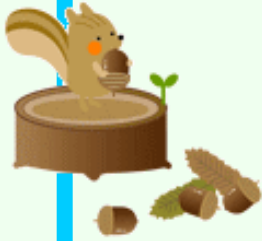
皆さんの備えは大丈夫ですか？

西日本豪雨の(※1)

記憶も新しい方々が、
まだ多くいらっしゃると思います。

(※1)
平成30年7月豪雨

今回は、
豪雨対策のお話です。



予報アプリを使ってみる

雨が降るかどうか分かる
雨雲レーダーのアプリがあります。

それらは現在、
性能が非常に良くなりました。

無料で利用できますので、
“雨雲レーダー”で検索し、
使いやすい物を見つけてください。

どんな雨が降るかという事が

だいたい6時間先くらいまで、
分かります。

日常に、
今日は雨が降るかな～？
というような時のチェックとしても
とても役に立ちます。



見慣れて感覚を養う

いつも雨雲レーダーのアプリを見ていると、

あの災害の時には紫色になっていたな...。
今はこんなに真っ赤になった！

などと、

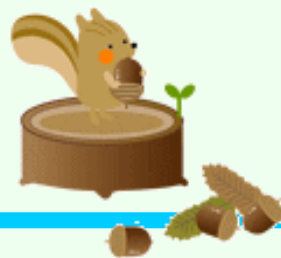
見慣れた画面とは全く違うなど
感覚的に分かってきます。

普段から使いこなして
感覚を養っていただきたいと思います。

地元の情報だけではなく、

子ども達だけで山登りをしている地域に、
雨は降らないかな？ など、

知りたい場所の状況もわかります。





暮らしのヒントに

雨雲レーダーのアプリの他に、

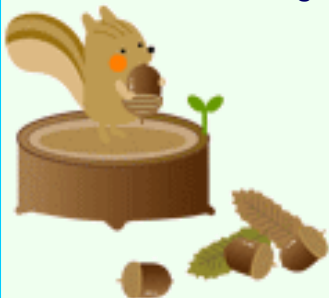
気象庁の「今後の雨」
というサイトは、

15時間先までの予報が載っています。

家を出てから
帰ってくるまでの間、

雨は降らないかな？
傘を持っていこうか？
洗濯ものを出していても大丈夫かな？

な～んていうことまで判ります。



住まいの地形を知ろう

おすすめのサイトは
住所検索の「マピオン」です。



自宅の住所を検索すると、
右上の囲みに

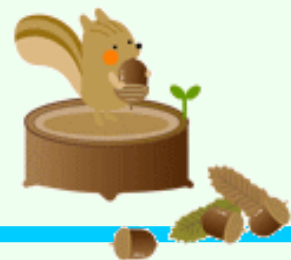
天気や風速、標高が出てきます。

家の周辺をスクロールしてみると、
自分の住む土地が、

周りの標高と比べて
高いか低いかが判ります。

より低いなというようでしたら、

雨が降ると、
皆さんのところに流れて
集まってくるかもしれません。





お近くの川岸を見てください。

対岸の方が高く、
自分の方が低ければ、

その川があふれると、

皆さんの方に
濁流がやってくる可能性があります。

アプリやサイトは、
画面をクルクルクルッと動かすだけで

豪雨対策を考える情報を得られるので、

ぜひ
やってみていただけたらと思います。



100mmの雨は、大災害



天気予報で
1時間に100mmの雨が降ります。と、

言われたときに
多くの方は逃げません。

100ミリと言われても、

大したことはない。
ミリだし。

って思うんです。

が、
100mmは、大災害なんです。



空から力士が降ってくる！

気象庁、気象予報官の
荒木健太郎さんから、(※2)



100mmの雨は大災害である。と、
イメージすることができる
スライドをいただきました。



(※2)
「せきらんうんのいっしょう」
という絵本の著者

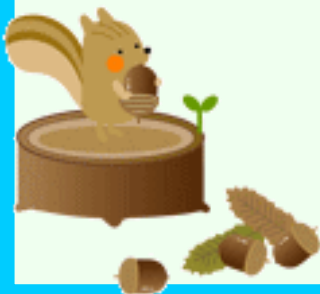
そのスライドを、
子どもたちに見せると、

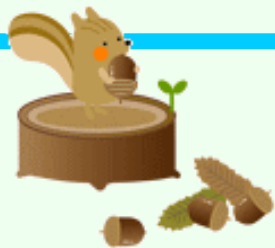
もう大人気なんです。

どのようなスライドかというと、

1m×1mの中に
1時間に1回

100kgの力士が
ひとり落ちてくるんです！





1m×1m、1カ士
2m×2m、4カ士

10m四方にはもう
沢山のカ士が、

空の上から次々落ちてくる！

というスライドがあって、

それを見たらもう
子どもたちは大喜び。

でも、
100kgのカ士が落ちてきたら

“危ないな” というのが

感覚的に分かるんですね。





西日本豪雨の前に、

岡山の中学生在が
この話を聞いてくださっていました。

雨が降っているときに、
100mmと聞いて、

「力士だよ。避難しなきゃ！」と、

家族に話してくれた。
という話を聞いています。

具体的にイメージできる事が
大事かと思います。



冠水の日安を知ろう

都市部は1時間に50mmで
もう冠水が始まったりします。



お住いの地域の
上下水道局のホームページに、

浸水する地域が描かれた地図などが
掲載されています。



川が近くにある場合には、

「川の防災情報」という、
国土交通省サイトや、

気象庁の「危険度分布」
というサイトを見てください。

両方バラバラに見るのは大変なので、(笑)

Yahoo! の
「河川水位情報」サイトが
便利だと思います。

雨の様子、川の様子が、
両方いっぺんに見られます。



スマホで情報ゲット

近くの川の上流にある、
観測地点の

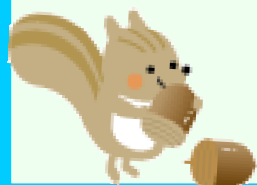
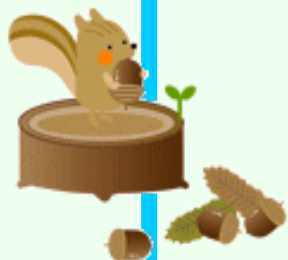
2か所の名前を覚えておくこと
をお勧めします。

Yahoo! の
「河川水位情報」サイトから、

防災情報→河川水位→川→観測地点
などで調べられます。

上流の観測地点で氾濫すると、

皆さんの方に間違いなく流れてきます。





台風が来るたびに、

目の前の川を見に行っても
流されてしまう人が後を絶ちません。

目の前の川を見に行っても、
上流の様子分かるわけではありません。

「このスマホで、
上流の様子を調べられるんだよ」

などというように
教えていただければと思います



雨降りのパターンに注目

もうひとつ重要な情報として、
雨の降り方があります。

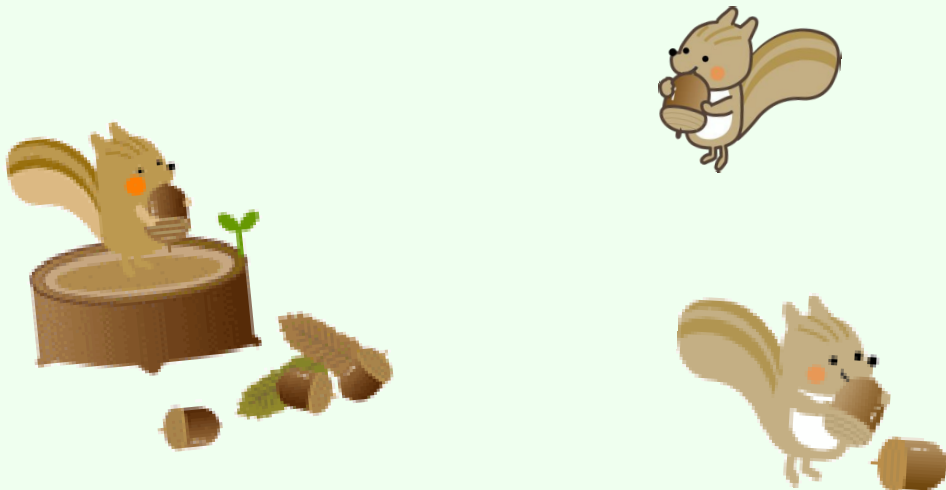
1時間に100mmの雨は、

短時間にたくさん降って
被害をもたらします。

だらだらと長く降り続く雨も
被害をもたらします。

西日本豪雨で被害があった真備などは、

長い時間だらだら降った雨によるものです。



避難のタイミングを知る

私たちは浸水情報を、

「うちは赤」とか
「青大丈夫」という所で見るとです。

それだけだと、
何時そうなるのか？ が判らない。

だから避難できない。
とされています。

何時、
どの「積算雨量」で
ハザードマップのとおり危険になるのか？

というのを調べて、
分かるようにしておいてください。



リミットは 積算雨量400mm



どのくらいの量の
雨が降ったのかが分かるように、

「積算雨量」という言葉を
聞き逃さないでください。

降り始めからの雨の量、
総雨量などという言葉でも
言い換えられています。



ほとんどのハザードマップで
危険とされている所は、

雨がだいたい400mmを超えると
その通りになると言われています。

被害が出る目安は、

- ①積算雨量が約400mm
- ②地域のハザードマップで
浸水や土砂災害の危険範囲かどうか

ということでわかりますね。





「避難情報が出ても、全く人は逃げない」
という事が

問題になっています。

次回はその逃げ方。

どうしたら逃げられるかな？ という事をお話できればと思います。

気象庁は、2019年5月29日から
「5段階の警戒レベルを用いた避難勧告等の発令」
の運用を開始しました。



TEXT/はしも